

へいじょうきょうあと 平城京跡出土の「分銅」形土製品

平城京跡（右京二条二坊十五坪） 奈良市横領町

平成13年度に行なった、近鉄西大寺駅南土地区画整理事業地内の調査において、珍しい「分銅」形土製品が出土しました。

調査地は、平城京の条坊復元では、右京二条二坊十五坪の南半西端にあたり、平成5年度の奈良市の調査成果によれば西二坊大路の一部が調査区内を通ると推定されていました。

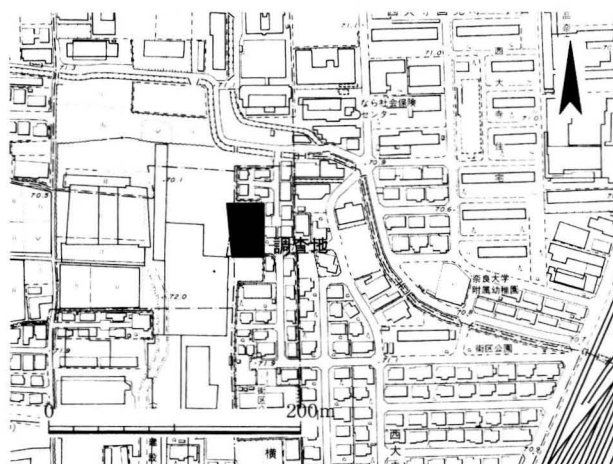
調査の概要 検出した主な遺構には、掘立柱建物跡、掘立柱塼跡、井戸跡、溝、土坑、池跡があります。

掘立柱建物跡は7棟分確認しました。柱穴が小さく、建物の主軸が四方位に対して振れているものが目立ち、鎌倉時代以降のものが多いようです。奈良時代の可能性が高い1棟は、南北4間(9.6m)、東西2間(3.6m)の南北に長い建物です。

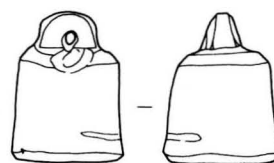
井戸跡は3つ見つかりました。2つは井戸枠がほとんど残っていませんでしたが、1つは約4.5m四方で深さ約3mの穴の中に、約0.6m四方に縦板を組んだ方形の井戸枠が残っていました。そしてこの枠を囲むように外側にも縦板が廻っており、この井戸が作り替えられたことがわかりました。井戸の中からは奈良時代後半の土師器や須恵器が出土しました。

溝はいくつか検出しましたが、そのうち発掘区の中央を南北に貫く溝は幅約1m、深さ0.3m前後で、平安時代末頃の遺物が出土しました。建物や井戸はすべてこの溝より東側で見つかり、この頃にこの溝によって宅地が改めて区画なおされたようです。このほか発掘区の西壁際で、幅9m以上、深さ0.3m以上の溝を検出しましたが、以前の調査から考えるとこの溝が西二坊大路の東側溝に当たる可能性があります。

また、発掘区の北西部は地表から3m位まで粘土と砂が溜まっており、その中には江戸時代の陶磁器などが含まれていました。その縁は杭を打ち、竹を渡して護岸が施されており、当時このあたりが溜池ようになっていたと推測されます。



調査地の位置図（縮尺1/6,000）



「分銅」形土製品図（縮尺1/2）

「分銅」形土製品 「分銅」形土製品が出土したのは、奈良時代と思われる掘立柱建物に重複して掘られていた、直径約1m、深さ0.3mほどの小さな土坑です。何かを抜き取った跡を埋めたような状態がうかがえましたが、何のために掘られたものかははっきりしません。いっしょに出土した遺物からみると、土坑が埋められたのは平安時代に入ってからと思われます。

出土した「分銅」形土製品は、土を焼いて作ったもので、高さ4cm、底面の直径が3cmの釣鐘形をしています。表面は磨かれ、焼き上がりによって銀灰色となっています。

この「分銅」形土製品の重さは36.43gありますが、焼き物であるため、ものの重さを量る「分銅」として、正確に作るのは無理であったと思われます。また、金属と違って損傷しやすいので、実際の秤として使用するには適していないと考えられます。したがってこの製品は、何かに付けた錘か飾りのような目的で作られたと考えるのがよいと思われます。

古代の分銅（鍾）について 古代においては、ものの重さを量る鍾は、天秤ばかり用と目盛りのついた棹ばかり用がありました。このうち、天秤ばかり用の基準となる鍾を分銅と言います。材質は銅や鉄製など金属製のものがほとんどですが、古代の中国では石製のものや、時代が下って明の時代には焼き物の分銅もあったようです。形も時代によって変化しているようで、銀行を示す現在の地図記号は、近世以降によく使われていた分銅の形を表しています。近世以前には壺形・笠形・半球形・釣鐘形など色々な形がありました。

奈良時代の重さの基準は、大宝令（奈良時代の法律）で規定しており、斤・両・分・銖という単位を使用しています。1斤（約672g）は16両、1両（約42g）は4分または24銖にあたります。

鍾は、今までに国内で20数点出土しており、奈良市内では、3点が出土しています。これらのうち、上の基準に合致するものは、確実に分銅と思われれます。

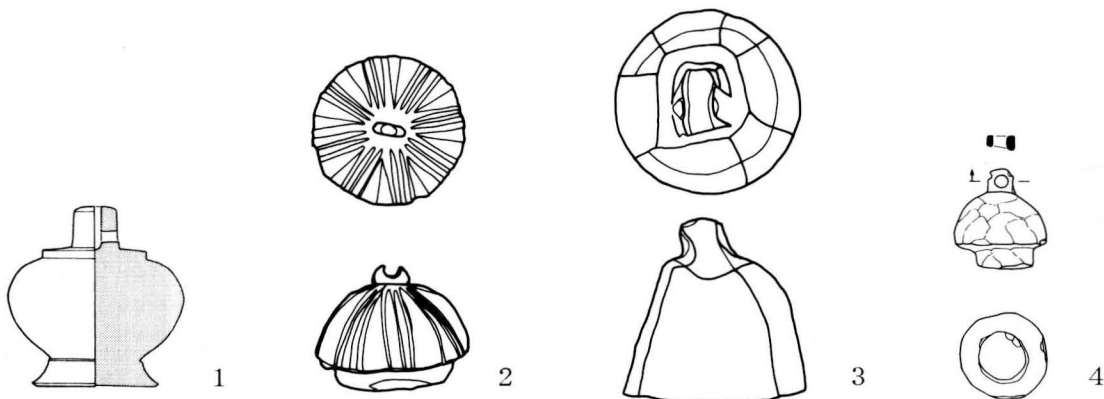
1は、井戸から奈良時代後半の土器と一緒に出土し、確実に奈良時代のものといえる資料です。

銅製で、重さは一斤の半分の8両あります。形は金属器の蓋付きの壺を模倣しています。鑄造したものをろくろによって形を整えて極めて精緻に仕上げられています。（平成6年 奈良市指定文化財）

2は、笠形のもので。銅製で重さは1の半分の4両あります。笠部は放射状に模様を線刻しています。類似品が出雲国府跡から出土しています。

3は、釣鐘形で鉄製のものです。表面が錆びて剥落しているため、本来の重さはわかりません。1・2とは材質も異なり、造りがあらく、形もいびつです。使われる場所が違うのか、用途が違うのかはわかりません。なお、2・3は奈良時代以降のもので、正確な時期は不明です。

今回の調査で出土した土製品は、3の釣鐘形の鍾に似ています。平安時代以降のものであることから、この形のものは他よりも時代が新しい可能性があります。重さが36.43gで、当時の重さの単位には一致しないので鍾であるかもしれません。しかし、素焼きであるため、破損しやすく、重さが変わる可能性があります。重さを量るのに適さないのではないのでしょうか。



分銅（鍾）図 縮尺1/2 4は報告書（大和郡山市教育委員会1990）より抜粋

奈良県内出土分銅（鍾）一覧表

番号	遺跡名	出土地	時代	形態	材質	重さ(g)	大きさ (cm)	備考
1	平城京跡 (左京九条一坊二坪)	奈良市 西九条町	奈良	壺形	銅	329.1	(平面径) 4.6 (高さ) 4.75	8両
2	平城京跡 (左京三条四坊九坪)	奈良市 芝辻町	奈良?	笠形	銅	174.26	(平面径) 4.0 (高さ) 3.4	4両
3	平城京跡 (左京七条二坊六坪)	奈良市 八条町	奈良	釣鐘形	鉄	*304.86	(平面径) 4.9 (高さ) 4.9	*錆びのため不正確
4	平城京跡 (右京八条一坊十坪)	大和郡山市 九条町	奈良	笠形	銅	40.0404	(平面径) 1.32 (高さ) 2.6	1両
5	藤原京跡 (右京二条三坊)	橿原市 醍醐町	飛鳥	笠形	銅	26.762	(底部径) 1.5 (高さ) 2.3	